



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 2207 番
95. 11. 29 No. 4302

正々堂々、胸を張って ストライクをやりぬこう! 11.28集会に480名

28日スト突入

われわれ労働千葉は、一、勝浦運転区廃止攻撃粉碎一、強配転者の原職復帰一、三、外房線一、二〇キロ運転反対、運転保安確立一、四、不当労働行為根絶一この四つの課題を掲げた一二月ダイヤ改阻止のストライキ闘争に、十一月二十八日、一時五三分の千葉転の泊勤務の仲間を皮切りに、以降各支部で突入しました。

一八時から千葉市民会館において開催された、労働千葉総決起集会は、会場を埋め尽くす四八〇名の大結集で大成功を勝ち取りました。

集会では、まず最初に、開会挨拶にたった布施副委員長が、七二時間ストに決起した意義の大きさを今日の集会であらためて確認し、密集せる反動をうちやぶって、最後まで貫徹することの重要性を訴えました。

怒りと団結をきつて

つづいて中野委員長は、当局・革マル一体となった労働千葉

つぶしに対して、怒りと団結をもって反撃し、この一〇年間の苦闘の成果をだす組合員の心からの総決起へ檄をはりました。

来賓あいさつでは、成田市議の足立まち子さんが、リストラ、賃下げなど大変厳しい時代を迎える中で、さまざまな不安と希望をうしなひかけている労働者への大きなはげましとしてたかかわれる労働千葉のストライキに心から連帯するあいさつがされました。

弁護団を代表して、阿部先生と遠藤先生は、勝浦運転区廃止攻撃に対する、不当労働行為地労委闘争の勝利命令獲得に向けて闘う決意が述べられました。

あいつめ

らいた敵の側、

労働千葉議員団を代表して、水野勝浦市議、そして岩瀬勝浦支部長から、JRの不当労働行為の元凶である松田一松崎を断じて許さず、徹底糾弾してストライキを闘う断固とした決意表明がされました。

田中書記長が闘争方針を提起し、国鉄分割・民営化反対のストライキに決起してから一〇年、われわれが頑張りつづけてきた中でついにJR体制が揺るぎはじめたこと、おいつめられた敵の最後の手段が勝浦運転区廃止攻撃であり、労働千葉を揺さぶって団結をくずす攻撃に対しまします団結をかためて新たな闘いを始めることの中に、われわれの勝利があること。

九六年を、JR当局・JR総連革マル結託体制一JR体制打倒と、解雇撤回闘争の勝利の年にするために、「最後まで正々堂々と胸をはって、何をされても団結をくずさないぞ」という決意で、一月一日までのストライキをやりぬこう」と提起しました。

不屈の解雇撤回闘争

メッセージ紹介のあと、解雇者が決意表明、第一波を代表して、綾部さん、第二波を代表して、高柴さん、清算事業団を代表して、高石さん一この闘いは本当にゆずることのできない闘いであり、争議団一JR本体内、本部、三位一体となつてJR体制打倒、解雇撤回、清算事業団闘争の勝利へ闘う不屈の決意が表明されました。

各支部からの決意表明は、ストライキに決起した自信と確信に満ちて、勝浦支部の怒りをわが怒りとして闘うものでした。一一・二八集会の大成功から、労働千葉の団結をさらに打ち固める七二時間ストライキの貫徹へ、最後まで一糸乱れずたたかぬこう一



闘争速報 No.1

